

## 地層研ニュース最終号の発行にあたって



長年に亘り地層研ニュースをご愛読いただき、誠にありがとうございます。この地層研ニュースは、平成14年4月に、瑞浪市からお借りした市有地に瑞浪超深地層研究所を開所したのを機に、研究所の研究内容等について広く地元の皆さまへお知らせする広報誌として発行以来、今日までの20年間毎月発行してまいりましたが、本240号で終了させていただきます。

これまで瑞浪超深地層研究所で取り組んできました超深地層研究所計画は、所期の研究成果をあげることができたことから令和元年度をもって終了し、その後は、令和2年1月に公表しました「令和2年度以降の超深地層研究所計画」に沿って、令和2年2月には坑道の埋め戻しに着手し、事故・トラブルなく、令和4年1月に地上施設の撤去を含め坑道の埋め戻しを完了することができました。ここに至るまで、瑞浪市をはじめとする関係自治体や地域の皆様、研究機関や大学などの研究者や専門家の方々のお力添えを賜りましたことに、深く御礼申し上げます。

今後は、瑞浪市から改めてお借りした市有地（期間：令和4年1月17日～令和10年3月31日）にて、地下水の状態を確認するための環境モニタリング調査を5年程度実施し、その後、令和9年度末までに地上施設の基礎の撤去並びに整地作業を完了させる予定です。また、それまでの間、河川水の水質分析や騒音・振動測定などの環境影響調査を引き続き実施してまいります。これらを担当する所員は、引き続き瑞浪地科学研究所にて勤務を行いますので、何かございましたらご連絡を頂きたいと存じます。

東濃地科学センターでは、地層処分の実現に向けて地層処分技術に関する信頼性の向上を図っていくため、土岐市にあります「土岐地球年代学研究所」において、地震や断層運動、火山・火成活動、隆起・侵食といった地質環境の長期安定性に関する研究に引き続き取り組んでまいります。改めて、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

令和4年3月 東濃地科学センター所長 伊藤洋昭



地上施設解体前 (2009年5月)



地上施設解体後 (2022年2月)

# 「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書」 第2条に基づく排出水等の測定結果（令和4年2月分）

【採取日（河川水）：令和4年2月3日】

【単位：mg/L（水素イオン濃度はpH）】

測定項目	管理目標値※1	狭間川下流	参考値※2	狭間川上流
水素イオン濃度	6.5～8.5	7.1	—	7.0
浮遊物質量	25以下	1未満	—	1未満
カドミウム	0.003以下	0.0003未満	0.003以下	0.0003未満
全シアン	検出されないこと※3	ND(0.1未満)※4	検出されないこと※3	ND(0.1未満)※4
鉛	0.01以下	0.005未満	0.01以下	0.005未満
六価クロム	0.05以下	0.02未満	0.05以下	0.02未満
砒素	0.01以下	0.005未満	0.01以下	0.005未満
総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005以下	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと※3	ND(0.0005未満)※4	検出されないこと※3	ND(0.0005未満)※4
PCB	検出されないこと※3	ND(0.0005未満)※4	検出されないこと※3	ND(0.0005未満)※4
トリカドミウム	0.01以下	0.001未満	0.01以下	0.001未満
テトラカドミウム	0.01以下	0.0005未満	0.01以下	0.0005未満
四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.002以下	0.0002未満
ジカドミウム	0.02以下	0.002未満	0.02以下	0.002未満
1,2-ジカドミウム	0.004以下	0.0004未満	0.004以下	0.0004未満
1,1,1-トリカドミウム	1以下	0.0005未満	1以下	0.0005未満
1,1,2-トリカドミウム	0.006以下	0.0006未満	0.006以下	0.0006未満
1,1-ジカドミウム	0.1以下	0.002未満	0.1以下	0.002未満
ビス-1,2-ジカドミウム	0.04以下	0.004未満	0.04以下	0.004未満
1,3-ジカドミウム	0.002以下	0.0002未満	0.002以下	0.0002未満
チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.006以下	0.0006未満
シマジン	0.003以下	0.0003未満	0.003以下	0.0003未満
チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.02以下	0.002未満
ベンゼン	0.01以下	0.001未満	0.01以下	0.001未満
セレン	0.01以下	0.002未満	0.01以下	0.002未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	0.23	10以下	0.23
ふっ素	0.8以下	0.08未満	0.8以下	0.08未満
ほう素	1以下	0.02未満	1以下	0.02未満
1,4-ジオキサン	0.05以下	0.005未満	0.05以下	0.005未満

※1 環境基本法に定められた基準値以下で管理するため、同法の基準値を「管理目標値」として設定しています。

※2 狭間川上流は管理対象外であるため、環境基本法の基準値を「参考値」として表示しています。

※3 「検出されないこと」とは、測定項目ごとに定められた検定（測定）方法で測定した結果が当該検定方法の定量限界を下回ることを表します。

※4 「ND」とは目的の成分が検出できないほど微量か、またはゼロであることを表します。NDの後のカッコ内の数値は検出限界値を表します。

## 河川水の塩化物イオン濃度の測定結果(2月)

【採取日：週2回】

(単位：mg/L)

測定項目	狭間川上流	明世小学校前取水口
塩化物イオン濃度 ※カッコ内は月平均の値を示す (有効数字2桁 3桁目は切り捨て)	2.4～41※ (9.6)	9.8～170※ (36)

※融雪剤の影響と考えられる

◆令和3年5月を以て「立坑の湧水」及び「工事排水」の測定が終了したことから、現在、狭間川の上流と明世小学校前取水口の河川水のみ測定を行っています。

## 地層研ニュースに関するご意見・ご要望 土岐地球年代学研究所見学のご質問・申込先

☎ 0572-53-0211（代表）

✉ tono-ck@jaea.go.jp（ご意見・ご要望）

☎ 0572-55-4114

連絡先：東濃地科学センター 総務・共生課 まで

〈見学のご案内〉

【見学可能日時】平日(月・水)9:00～12:00、13:30～16:00（詳細は右QRコードを参照）

【見学時間】1時間10分程度(東濃地科学センターの概要説明、分析室等の見学)

【対象年齢】小学4年生以上(小学生の方は、保護者同伴)

【見学人数】1団体4名以下(新型コロナウイルス感染症対策のため少人数での見学)

※新型コロナウイルスの感染拡大を受け、見学の受け入れを中止する場合がございます。  
見学の開催等については、上記の連絡先(電話、メール)にお問い合わせください。



《見学案内HP》



原子力機構公式 Twitter  
[https://twitter.com/jaea\\_japan](https://twitter.com/jaea_japan)



原子力機構の Twitter では研究成果やイベント情報などをお知らせしています。

